



あとがき



編集長として2回目の「あとがき」執筆になります。この2月号では、会議のトピックス4件、話題・解説5件、読書の広場4件と多くの投稿を頂きました。ご執筆頂いた皆様及びご提案頂いた方々に感謝いたします。2年前に編集長をお引き受けしてから、6号刊行したことになります。途中、ネタ切れで1年3回の発行ペースを維持できないのではとの危惧も若干ありましたが、何とか責任を全うすることができました。これは偏に核データニュース読者のサポートのお陰であると思っております。さて独断と偏見ですが、6号の中で私にとって印象に残った記事を幾つか挙げます。まず、Zhou Shan-Gui氏（中国科学院理論物理学研究所）(118号)による中国に於ける新元素の漢字命名法に関する記事は、著者の卓越した英語力及び中国語圏以外では難しい特殊な漢字フォントの表記により大変興味深く読ませていただきました。また、河野俊彦氏（ロスアラモス研究所）には2回(117、121号)にわたって統計理論備忘録を執筆頂き、学生さん及び核データ評価のビギナーにとって貴重な参考書となっております。次は何のテーマでご執筆頂けるのでしょうか。井頭政之氏（元東工大）(117号)、石橋健二氏（元九大）(122号)には特にお願ひして、最終講義に関して纏めて頂きました。長年にわたるご研究の一端も垣間見えました。そして初めての試みですが、IAEA/NDSのインターンシップに応募した学生さん達による座談会（122号）を奥村森氏（IAEA）に纏めて頂きました。学生さんから見たIAEA/NDSスタッフの印象を知ることができ、大変面白く読ませて頂きました。今後、一人でも多くの若者が核データのコミュニティに加わることを願っています。

巻頭の追悼文でお分りの様に、長らく編集委員を務めて頂きました喜多尾憲助氏が昨年ご逝去されました。本誌では、Nuclear Data Sheetsのアップデート情報を長年担当されてきました。最近、お目にかかる機会はありませんでしたが、20-30年前に冊子版の核データニュース編集の時代には定期的開催された編集委員会に頻繁に出席されてきました。喜多尾さんは情報誌としての核データニュースでは、会議報告が多いのは仕方ないが、他の記事も積極的に集めるようにと良く仰っていました。現状、会議のトピックスは多いのですが、その他の記事も着実に増えていますので、喜多尾さんの理想とする核データニュースになっているのではと、勝手に思っています。どうぞ、安らかにお休み下さい。

30年前最初に核データニュースの編集委員としてデビューした年、昭和から平成に元号が変わりました。そして、今年の5月には平成から新しい元号が変わります。それに呼応する訳ではありませんが、石川眞副編集長と私は今期で編集委員を退任いた

します。私に関しては2年間というショートリリーフではありましたが、ご協力いただき誠にありがとうございました。特に石川副編集長にはWORDテンプレートの作成や個々の原稿の体裁修正など手間のかかる仕事をして頂き、多分、私より仕事量は多かったでしょう。厚く御礼致します。次の6月号からは宇根崎博信氏（京都大）が編集長として核データニュースを担当されます。私とは違う視点で、編集を行っていただけのものであります。今後とも、編集委員会へのご協力を宜しくお願い致します。私も一読者として、核データニュースの発行を楽しみしております。

柴田 恵一 2019年2月

日本原子力学会核データ部会

核データニュース編集小委員会

山野 直樹（AsiaSEED）、石川 眞（原子力機構）、岩本 修（原子力機構）、
大塚 直彦（IAEA）、金 政浩（九大）、小浦 寛之（原子力機構）、
中村 詔司（原子力機構）、横山 賢治（原子力機構）、柴田 恵一（委員長、原子力機構）